

ひょうごの遺跡

平成16年
6月30日発行

52号

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-5 TEL 078 531)7011 FAX 078 531)7014

ホームページアドレス <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

- 北近畿豊岡自動車道特集 - 古代につながるはるかな道

平成5年度に実施した七日市遺跡から、足掛け12年にわたる丹波・但馬を結ぶ北近畿自動車道（春日和田山道路）の発掘調査が、今年度上半期をもって終了します。

この間、丹波側では和同開珎や銅印が出土した氷上町の市辺遺跡、但馬側には粟鹿の駅家跡と判明した山東町の柴遺跡、そして豪族の居館跡であった柿坪遺跡、さらに但馬最古の王墓と考えられる若水A1号墳、大量の鉄製品が副葬されていた和田山町の茶すり山古墳などの貴重な発見がありました。『ひょうごの遺跡』でも、一早く成果をお届けしたとおりです。

本号は、その際に取り上げることができなかった遺跡や、遺跡発掘調査時の苦労話を掲載しています。山陰道沿いに展開する古代・中世の丹波・但馬の遺跡、そして歴史は繰り返すという不思議さをお楽しみください。



遠阪峠上空から山東盆地を望む



遠阪峠上空からの鳥瞰（カシミール3Dにより作成）

但馬の王と古墳時代集落

但馬一の大河円山川上流域や、円山川の支流の与布土川、粟鹿川の流域には但馬でも有数の平地が広がっています。加都遺跡は、円山川右岸の「加都千石」と呼ばれる広大な平地にあります。播但連絡道路と北近畿豊岡自動車道の合流するインターチェンジが建設される場所で、古墳時代中期から後期を中心とする100軒もの竪穴住居跡が検出され、集落南側の谷には大規模な水田跡も発見されました。

柿坪遺跡は与布土川が形成し、段丘化した扇状地のほぼ全域に営まれており、その範囲は東西400m、南北1kmにも及ぶ「但馬最大の古墳時代集落」です。これまでの調査では古墳時代を通して120軒以上の竪穴住居跡が確認されたほか、整然と並んだ掘立柱建物群が注目されました。最も大きい建物では床面積が20㎡にも及び（古墳時代では全国2位）、棟持ち柱や4面に庇を持つ特殊な構造で、従来の調査例では祭祀に関連する建物であることが推定されています。他の建物も棟持ち柱を持ち、やや大きな柱穴からなる大規模の建物であり、但馬でも有数の有力者が存在した空間（居館や倉庫、神殿）であったと考えられています。

粟鹿遺跡は、粟鹿神社の前のインターチェンジ予定地に広がっています。ここでも古墳時代中期末から後期を中心に竪穴住居跡が100軒あまり発見されています。

この3つの遺跡は、今まで但馬では発見されていなかった古墳時代の大規模なムラです。洪水の影響を受けにくい段丘上に築かれ、弥生時代から律令時代まで連続して遺跡が営まれている中にあります。各集落から100軒単位の竪穴住居跡が発見されましたが、中でも柿坪遺跡は特別な建物が存在する別格の集落で、茶すり山古墳をはじめとする古墳に眠る王が君臨した舞台としてふさわしい空間と言えるでしょう。



掘立柱建物群（柿坪遺跡）



横方向から開いた石室の入り口



副葬された剣・鏡・須恵器

堅穴系横口式石室を持つ古墳 —中佐治古墳群—

中佐治古墳群はのちの山陰道を見下ろせる丘陵尾根上に築かれています。1号墳から3号墳は標高約220mの頂上に作られており、すべて木棺を直接墳丘に埋葬した木棺直葬墳です。このうち直径約14mの2号墳には複数の木棺が埋められており、ガラス製の小玉や大刀、須恵器などが出土しました。

南に伸びる急斜面の尾根上でも3基の古墳を調査し、木棺直葬の6号墳、組合せ式箱式石棺をおさめた4号墳の他に、直径約18mと最大の規模をもつ5号墳があります。5号墳には主体部として堅穴系横口式石室が築かれていました。狭長な石室内には小礫を敷いており、おそらく1体だけの埋葬であったと思われます。青銅製の珠文鏡や鉄製の剣・斧・鎌・鏃・鋤先、須恵器杯・壺が納めてありました。堅穴系横口式石室は堅穴式石室状の狭長な石室の一短壁に横口を設けて板石で閉塞し、羨道を設けるもので、初期横穴式石室の一種です。中佐治5号墳は兵庫県下で30数例ある堅穴系横口式石室のなかでも最も古いものの一つです。

中佐治古墳群は5世紀末から6世紀前半の、木棺直葬や箱式石棺のような伝統的な堅穴系の埋葬方法からはじめて横穴系の埋葬方法が導入された古墳群であり、古墳の変遷をたどる上で重要な遺跡です。



珠文鏡



X線写真

筒江浦石遺跡 —古墳時代の粘土採掘場—

つつえうらいし
筒江浦石遺跡は、円山川上流の小さな支流に沿った谷にあります。200年（平成12年）におこなわれた発掘調査では、約2900㎡の範囲から、200基近い粘土採掘の跡がみつかりました。調査区は、重なり合うように掘られた採掘坑（粘土とりの穴）で、足の踏み場もないほどでした。粘土が掘られた時代は、古墳時代の初め頃（約1700年前）です。

採掘坑は、直径1m前後のものが多く、深いものでは2mにも達しています。目的とする粘土層まで掘ると、今度は粘土層の部分だけを横向きに掘っていきます。このため穴は、底が平らで、底に近い部分の壁だけが大きくえぐられていました。

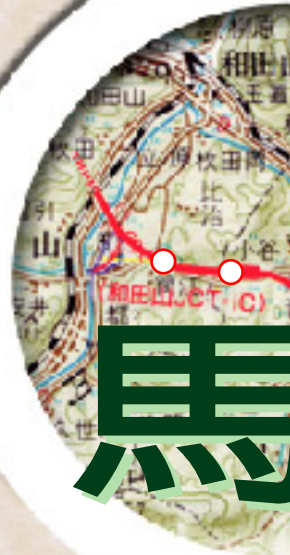
粘土とりがすむと、どの採掘坑もきちんと埋め戻されたようですが、いくつかの採掘坑では、埋める途中で、穴の中に土器を置いたり、粘土とりの足場にした木の板を いっしょに埋めこんだりしていました。



遺跡の全景



粘土採掘坑



大月北山遺跡 —石の枕と布団？—



礫敷の木棺を持つ1号墳



1号墳調査風景

山東町西端の細い尾根の上で2基の古墳が見つかりました。古墳からは東側の山東盆地を見わたすことができます。

1号墳は割石を組み合わせた箱式石棺で、全体を粘土で覆っており、2号墳は組み合わせ式の木棺でした。古墳全体は、地形を改変することが少ない方法で造られていたため、形や大きさは不明です。

1号墳の棺内には、滑石製小玉多数と刀子を副葬し、石棺の側石上には鉄刀を置いていました。2号墳の棺内には小さな河原石を敷き詰めた上に石枕（角礫）を置き、棺外には鉄剣を副葬していました。2号墳のように棺内に河原石を敷く例は、すぐ近くの茶すり山古墳をはじめ、この付近に多くみられます。

1・2号墳ともに5世紀代に造られたと考えられていますが、約50mの近距離にありながら、棺に使う材料が違っていました。



2号墳と山東盆地

馬

芝花古墳群 —ムラビトたちが眠る丘—

山東盆地の周囲の丘陵には茶すり山古墳や若水古墳のような大規模な古墳以外にも多くの古墳が存在しています。柿坪遺跡の東側に位置する山塊には150基近くと非常に多くの古墳が存在していると考えられています。調査をおこなった芝花古墳群はその一部にあたります。



古墳時代後期の石棺

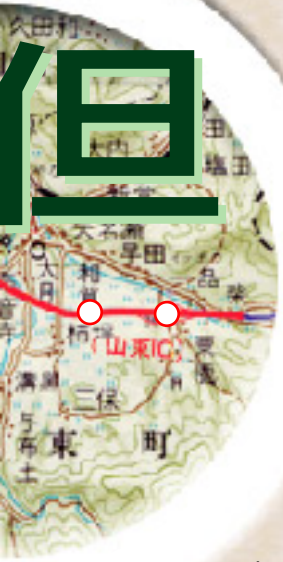


弥生時代後期の土器棺



古墳時代前期の方墳

集落の営まれた時期と対応するかのように、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての長い期間お墓が造り続けられたことが分かりました。



粟鹿遺跡 —粟鹿神社の参道と方形貼石墓—

これまで弥生時代や古墳時代を中心とする竪穴住居跡が100棟以上検出されたほか、奈良時代の粟鹿神社に関連がある「着到殿」と考えられる大型建物遺構や遺物が出土しました。ここでは、遺跡の中央部付近（E地区）で発見された、方形貼り石墓と粟鹿神社の参道について紹介しましょう。

まず、弥生時代中期末～後期初頭の方形貼石墓を1基発掘しました。南北1辺20m以上、東西15m以上、深さ0.7mあります。北側の溝



方形貼石墓

は後世に削平されていましたが、溝が「コ」の字に巡らされていました。残念ながら、埋葬施設も既に削平されていました。周溝の貼石は50cm×30cm前後の板状の河原石を用いられ、一部の基底石のみ残っていました。出土遺物には弥生時代中期末～後期初頭の土器があります。弥生時代の方形貼石墓は山陰地方や丹後地方に分布することが知られていますが、但馬地方では今回初めて発見されました。

また中世につくられた粟鹿神社の石敷きの旧参道が幅3m長さ80mにわたって発掘されました。中世の道の資料としては全国的にも稀です。この参道は古代末から中世ごろに粟鹿神社の祭主が「神部直」から「日下部」に交代し、この勢力を誇示するために条里方向と異なった方向に石敷きの参道を造ったものと考えられます。



粟鹿神社へと続く参道

市辺遺跡 ー見えない柱穴 悪夢の柱ー

発掘調査において何が大切かと考えれば、土の微妙な違いから遺構を見つけていくことだと思う。もちろんその違いを見つけるにはいろいろな経験や知識が必要なのは言うまでもない。

では、土の違いを調査員はどうやって見つけているのか。最も手がかりとするのは色の違いである。地面には元々の色がある。そこへ人間が穴を掘ると必然的に土がかき混ぜられる。その穴に草木が入ると腐植し黒っぽくなるし、土器などが混ざることもある。こうして、元の地面とはちょっと違った土で埋まった穴ができあがる。土の違いは色の違いとして最もよく現れるので、

たいていの場合色で遺構を見つけれらるのだ。

しかしこれは市辺遺跡にはあてはまらなかった。なぜなら市辺遺跡は加古川の洪水によって土がかき混ぜられ、その違いが分からなかったのだ。土の違いが無ければ遺構は無いものとして調査を続けるのだが、



並んだ柱、見えない柱穴...

そうはいかなかった。建物に使われた柱が1200年の時を経てなおその姿をとどめていたからである。それも1本ではなく、何本とある。

柱を立てるにはかならず地面に穴を掘らなければならない。しかしそこにあるはずの柱穴が見つからない、そして柱だけが立っている。この光景はまさに悪夢であった。

柱穴を見つけ柱を発見するのが普通の順番。市辺遺跡では柱が見つかり、柱穴を探す。このようになんとも珍しい発掘調査が行われた。



悪夢の柱



丹

沢野遺跡 ー突如として現れた村ー



沢野村

氷上郡青垣町沢野には7世紀末に突如として現れた村がある。そしてその村はわずか50~60年間しか存在しなかった。

平成12年に行った発掘調査で姿を現したその村は佐治川によって形成された扇状地の微高地上に位置している。沢野という地名が示すように、当時このあたりは湿地が広がっていたと考えられる。そのような土地のわずかな微高地上にその村は設営された。

8世紀代、日本は中国の律令制度を習い、国中を整備し始めた時期であった。税の基本となる「米」を生産する。そのための新田開発が日本各地で行われていった。開拓のため前代から何のつながりも無い土地に村が形成される。このような例が日本各地に見られることが発掘調査によって分かってきた。



竪穴住居跡

まさに「沢野村」はこの条件に当てはまる。7世紀末、新しい土地を開発するための集団が沢野にやってきた。彼らはこの広い盆地のわずかな微高地に村を設営し、これから自分たちが切り広げる土地を眺めたであろう。そして世代にして3代ほど、約60年が過ぎたとき、新しい土地へと移り住んだのである。



写真中央から右側一帯が
七日市遺跡（南から）

七日市遺跡 —今も昔もジャンクション—

北近畿豊岡自動車道は、近畿自動車道敦賀線の春日ジャンクションを介して大阪と但馬地域を結びます。七日市遺跡はこの春日ジャンクションの地下に広がる広大な遺跡です。

約2万数千年前、旧石器時代の狩猟の拠点だった七日市遺跡も長い空白期を迎えます。そして約2万年のときが流れ、弥生時代に入ると七日市遺跡の新たな歴史が始まります。新しくできたムラは盛衰を繰り返しながら弥生時代を通して存続します。このムラを考える

うえで「水分れ」を忘れることはできません。「水分れ」は氷上町にある本州で最も低い分水界であり、古来日本海側と瀬戸内海側を結ぶ交通路となっていました。遺跡から出土した遺物の中には南北の人々の移動を物語るものも多く見られます。日本海側と瀬戸内海側のほぼ中間に位置する七日市遺跡はこれら2つの社会を結ぶ窓口だったのは間違いないでしょう。七日市遺跡は弥生時代も現在もジャンクション（連結点）なのです。



弥生時代の住居と墓が多数見つかりました

土井・田ノ口遺跡 —遠阪谷に住まう人々—

遠阪谷は氷上郡青垣町の北部、丹波但馬国境 - 遠阪峠に向かう幅300m足らず、全長3kmに及ぶ細長い谷です。谷に面した更に小さな南向きの谷からは集落遺跡が幾つも見つかりました。

中でも、遠阪峠の麓にある田ノ口遺跡・土井遺跡では平安時代後期から室町時代にかけて大きな集落を営んだことが明らかとなりました。

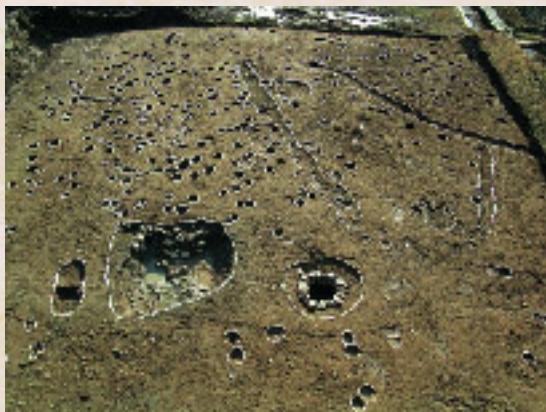
両遺跡からは、大小多数の掘立柱建物跡、鍛冶工房跡や墓跡（田ノ口遺跡）・お堂跡（土

井遺跡に近接する伝平等寺跡遺跡）・谷水田跡（田ノ口遺跡）などの遺構が見つかり、日常雑器のほか中国製の青白磁水滴、緑釉陶器や灰釉陶器、ガラス製数珠、鎧の小札など一般の集落では余り出土しない遺物が出土しています。

2つの遺跡は古代から中世にかけての遠阪谷の中心的な場所の一つ、恐らく、遠阪谷の開発に携わった開発領主や有力農民といった人々の住まいであったと考えられます。彼らは、耕地の開発や経営にいそしんでいただけでなく、国境、そして山陰道に面するという地の利を生かして物流にも大きく関わっていたことが多彩な出土遺物からうかがえます。



遠阪谷（南から）



おびたしい柱穴（田ノ口遺跡）

波

県立考古博
(仮称)
先行展

じよもんじん
縄文人

やよいじん
弥生人

こぼんじん
古墳人

(巨鳥・丹井遺跡)

明石人から現代人まで

私たちの由来

期間 平成 16年

7月17日(土) → 9月5日(日)

時間 午前 10時 ~ 午後 6時

休館日 毎月曜日(7月19日を除く)と7月20日・25日・8月22日

場所 播磨町郷土資料館

入場
無料

考古・人類学教室

(会場：播磨町中央公民館視聴覚室、時間：午後2時~4時)

●第1回 7月31日(土) 国立歴史民俗博物館 春成 秀爾 氏「明石郡人のその後」

●第2回 8月 3日(日) 京都大学理学部 片山 一道 氏「縄文人と弥生人」

●第3回 8月21日(土) 倉知大学人文学部 清家 章 氏「古墳時代の骨董考古学」

主催 兵庫県教育委員会・播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館

問合せ先 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 ☎078-531-7011

あなたの顔は、
縄文系、弥生系？

現代人

編
集
後
記

高速道路関係の発掘調査では、路線の下から古代の道路が出てきたり、インター予定地からは大集落が発見されることがよくあります。昔の人も近道や広い場所を選ぶ目のつけどころは同じなんですね。きっと逃げ道や手抜きをするのも同じなのでしょうが、発掘調査で古代人の怠慢を見つけては微笑ましく思うと同時に、自分の手抜きは後で見つからないようにうまく隠し通したいものです。

県立考古博物館(仮称)の先行展「私たちの由来」でも、古代の骨や食生活の様子を知ること、現代の生活を見直す上でも参考になることが盛りだくさんです。どうかぜひご覧下さい。(K.U)